

中学生の皆さんへ

2020 年度から導入される「大学入学共通テスト」への本校の対応について

* 大学入試の変化について

センター試験は 2019 年度（2020 年 1 月）の実施を最後に廃止され、これに代わり 2020 年度からスタートするのが「大学入学共通テスト」です。これまでのセンター試験と同様、1 月中旬の 2 日間で実施される予定です。今の高校 2 年生（2019 年 4 月時点）から、この「大学入学共通テスト」（2021 年 1 月実施）を受験することになります。

* どう変わるのか。

現在のセンター試験からの大きな変更として、マーク式でこれまでのセンター試験になかった記述式問題の導入と、英語について 4 技能（読む・聞く・話す・書く）を評価することが挙げられます。

また、新テストの導入にあたっては、「知識・技能」だけでなく、大学入学段階で求められる「思考力・判断力・表現力」を中心に評価するという考えがベースにあります。現在、そうした方向で出題内容について検討が進められています。一般に「思考力・判断力・表現力」を中心に評価する問題を多く出題すると、テストの難易度は上がる傾向にありますので、現在のセンター試験と比較すると難易度の高い問題の出題が考えられます。

* 本校では、来春入学生徒の指導にあたり、次のような対応をしています。

- ①主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善を行う。
- ②学校全体で「共通テスト」に対応する指導法を研究し早期に確立する。
- ③定期考査等において、記述式問題（字数指定）を導入し評価する。
- ④ G T E C、英検等を生徒全員が受験し、民間活用試験に対応する。
（注・民間の資格・検定試験の利用については、現在確定していません。ただし、既に個別で導入大学有り）
- ⑤教職員を各研修会に派遣し、指導者自身の指導力向上と、外部からの情報収集に努める。

※ 上記④について、茨城県教育研修センターが実施した「思考力・判断力・表現力を高める指導力向上研修講座」（延べ 3 日間、実際の指導を想定した研修講座）に本校から 6 名の先生が参加しました。この研修では、難関国公立大学の合格者数を伸ばすだけでなく、すべての高校の教育改革にあります。次に研修に参加した先生からのコメントや、受験が予定される中学 3 年生へのメッセージを掲載します。

国語科 O 先生

現在、大学入試が大きく変わろうとしています。ひいては教育そのものの改革が大きく進んでいくものと考えられます。高校国語には確かな論述力とそれを支える深い読解力が求められており、そのためには「思考力・判断力・表現力」を鍛え、自ら積極的に発言し、他者の意見を深く聴くことが大切であると研修を通して感じました。国語は大変広い分野を含んだ教科です。

国語科 N 先生

「思考力・判断力・表現力」を高めることは、実社会からの要請に基づくものと研修に参加し改めて実感しています。ともすれば、「どんな難しいものなのか」と中学生の皆さんは不安になるかと思いますが、国語でいえば文章の構造や社会の現象などに我々と共に興味関心を抱いていけば難しいものではありません。授業での「話す・書く・聞く・読む」を通して楽しく力を培っていきましょう。

地歴科 M 先生

土浦二高の授業は、地歴科が好きな生徒も多いこともあって、いつも楽しい時間を共有しています。その中で、常に我々教員達は、「どのような力を生徒に身につけてもらおうとしていたか」を大事に考えています。2～3年次で教科書は完結しますが、暗記科目といった次元ではなく、例えば、歴史では、時代を認識することで論理的な思考力・表現力を培うことも目論んでいます。そういった過程の中で、論述をすること＝自分の言葉や文章で捉えることがやはり肝要です。高校時代に学んだ論述力は、一生使える力となり、大学の各講座のレポートは苦にならなかった…、様々な資格試験（司法試験、公認会計士等）の論述問題に役に立った…、入社試験でもしっかりと自己アピールができた…等、卒業生からそのような話を聞く機会にも恵まれます。授業内だけでなく、必要とあらば、個別指導等、ありとあらゆる場と機会を設け、各科目の専門の教員が一人一人に寄り添い、丁寧に指導していきます。きっと、今までと違った社会の授業、社会の勉強の仕方があります。素晴らしい高校生活を作っていく中の1コマに、地歴科も入り、一緒に頑張っていくことができれば幸いです。

数学科 I 先生

中学生のみなさんは、数学とどのように向き合っていますか？「この問題にはこの公式」というように、パターンを決めたり、公式を暗記して問題を解いている人もいます。公式や法則を理解すること、つまり知識・技能を身に付けることは大切です。しかし、変わりゆく社会の中では、それだけではなく、理解していること、できることをどう使うか、つまり、思考力・判断力・表現力を身に付けることが必要になってきています。

数学において、自分自身で様々なことを試し、発見するという作業はとても重要です。土浦二高の授業ではこれに加え、友人の意見や考え方を聞き、自分の考えを深める活動を重視したいと考えています。ぜひ土浦二高で、何のための数学か、を一緒に考えていきましょう。

理科 M 先生

皆さん方の輝かしい未来は、様々な分野で進展する技術革新により、今よりも便利で、今よりも多様な選択肢のある社会になっていることでしょう。同時に前例のない諸問題について、自らの力で正しい情報を取捨選択し、意思決定していく場面も一層増えていきます。その際に必要な「思考力・判断力・表現力」は、これからの社会を「生きる力」そのものとなります。

理科の学習では、科目の特性・可能性はそれぞれですが、グラフや図を読み取り、客観的事実に基づく考察を行うことを通して、生きる力に繋がる批判的思考力（曖昧な情報に流されずに真理を追究する力）を身に付けていくことができます。

土浦二高で、より良い人生を送るための「生きる力」を育んでいきましょう。

英語科 Y 先生

「英語を学ぶこと」にばかりに焦点を当てるのではなく、「英語を通じて何を学ぶか、英語で何を伝えるか」という面が大事かと思います。英語は単なる伝達の道具にかもしれません、技術が進歩すれば「英語が話せることそれ自体は何の価値もない」という時代だってやってくるかもしれないのです。

英語という伝達の道具を使えること以上に、その道具で何を伝えるかがこれからは重要になってきます。様々なものに興味を持ち、思考を巡らせ、頭の中に広がる世界を充実させて下さい。それが本質的な「思考力・判断力・判断力」の向上につながることでしょう。